

2021年3月期 中間決算説明会

当社ホームページ掲載日：2020年11月27日（金）



■ 会社概要	P. 3
■ 中間連結業績（実績）	P. 5
■ 中間連結セグメント別（実績）	P.12
■ 2020年度通期連結業績予想	P.22
■ 開示情報他、トピックス	P.24
■ 中期経営計画について	P.26

創 立

昭和24年(1949年)2月22日

資 本 金

22億2,000万円

本 社

大阪市西淀川区

上 場

東京証券取引所 市場第二部

**従業員数
(20年9月末現在)**

**連結:467名
単体:276名**

連結中間売上高

54億61百万円(2020年9月期)



「水を造り、熱を活かし、音を究め、よりよい環境をつくる」

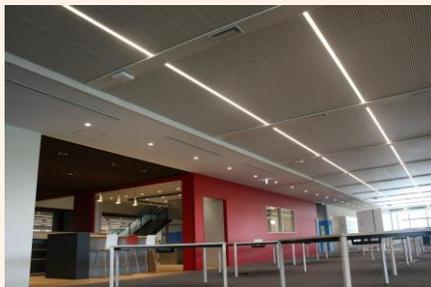
当社の商品は**技術力**です。

創立以来、旺盛なエンジニアリング志向と果敢なパイオニアスピリットを擁して、技術開発型企業に徹し、グローバル市場で顧客の様々な環境問題の解決を推進し、各分野で高い評価を受けています。

水と環境



熱と環境



音と環境



中間連結業績 (実績)

【当期の概況】

当中間期は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、計画の延期や受注の決定が遅れるなど、厳しい状況が続きました。特に都市封鎖や移動制限があったサウジアラビアやインドネシアでの事業は回復の兆しが見えない厳しい経営を強いられております。そのような中、台湾IT関連市場向け無排水化プラントの受注があったことから、受注は前期並みの50億68百万円を確保できましたが、売上高は54億61百万円（前年同期比9.2%減）、受注残高は97億75百万円（同2.7%増）となりました。

損益面につきましては、固定費の削減に努力したものの、営業利益は2億72百万円（同35.2%減）と減少しました。経常利益は為替変動の影響を受け、為替差損を1億70百万円計上したことから1億2百万円（同27.3%減）となり、親会社株主に帰属する中間純利益は44百万円（前年同期は59百万円の損失）となりました。



連結業績（実績）過去2年間の比較

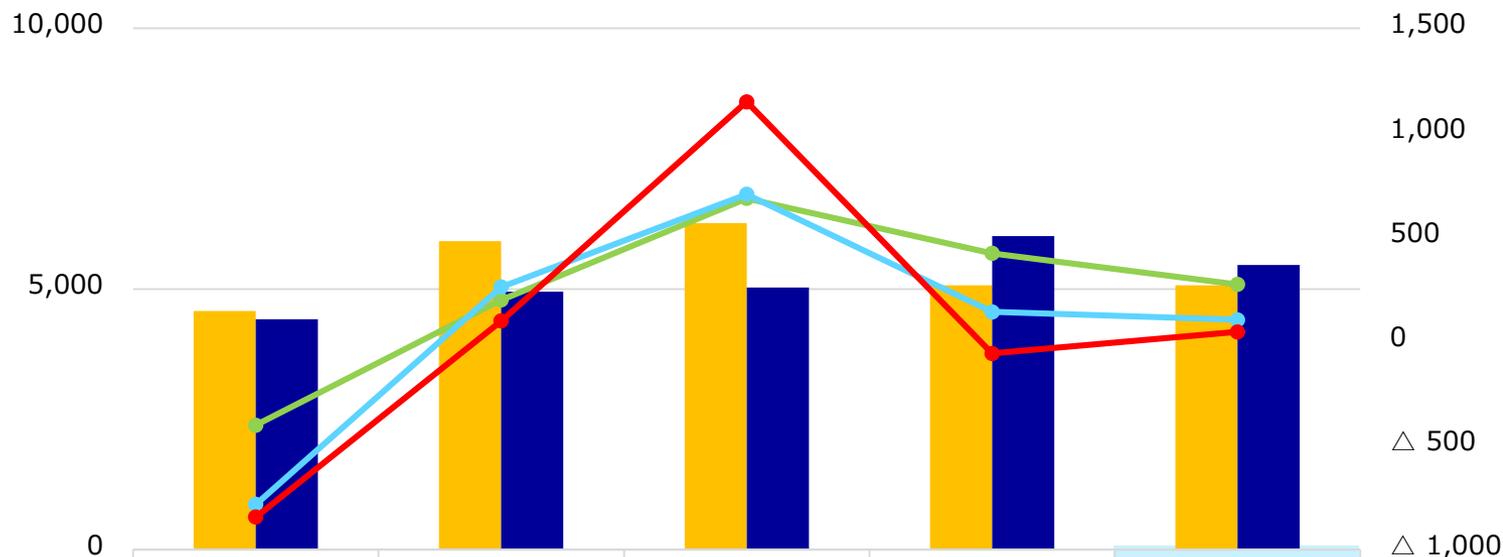
（単位：百万円）

	2019年度	2019年度	2020年度	2020年度
	中 間	通 期	中 間	通期予想
受注高 （前期比増減率）	5,069 ▲19.0%	11,424 ▲13.2%	5,068 ▲0.01%	11,600 1.5%
売上高 （同上）	6,017 19.6%	11,796 ▲53.4%	5,461 ▲9.2%	12,000 1.7%
営業利益 （同上）	421 ▲38.4%	719 ▲16.6%	272 ▲35.2%	300 ▲58.3%
経常利益 （同上）	140 ▲80.1%	374 ▲50.5%	102 ▲27.3%	▲200 -
当期純利益 （同上）	▲59 * 1,207減少	94 ▲92.7%	44 * 103増加	▲250 -

※「当期純利益」は「親会社株主に帰属する当期純利益」を示しております。

中間連結業績の推移 過去5年間

(単位：百万円)



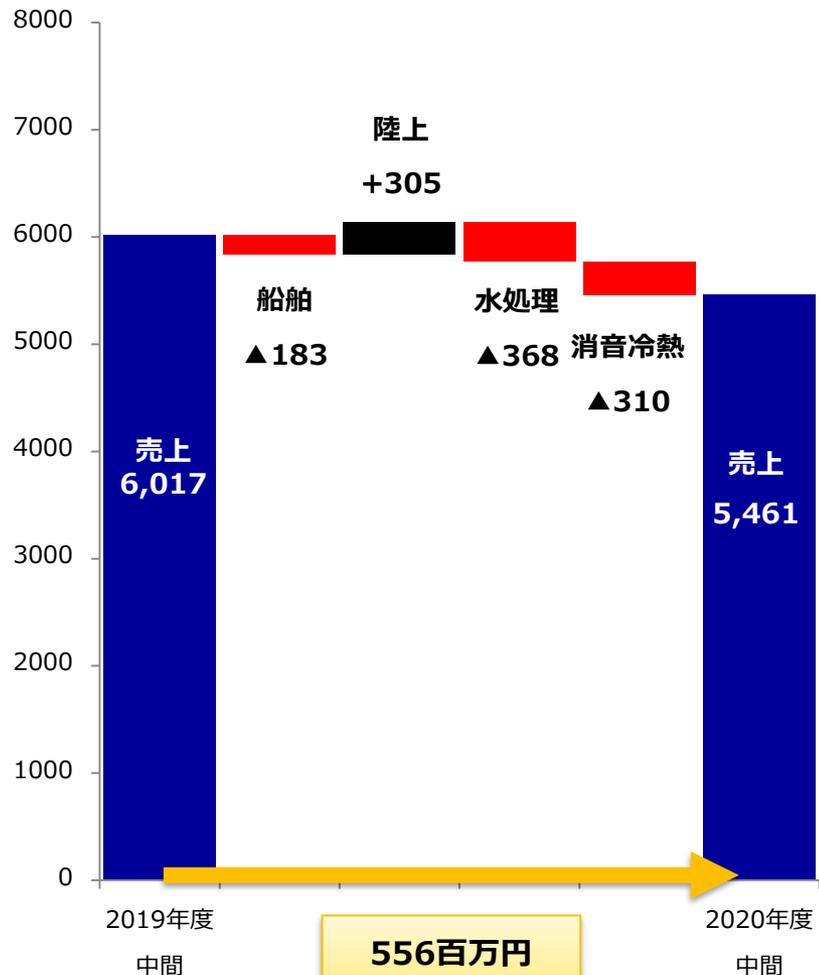
	2016年度 中間	2017年度 中間	2018年度 中間	2019年度 中間	2020年度 中間
■ 受注	4,575	5,917	6,262	5,069	5,068
■ 売上	4,418	4,951	5,030	6,017	5,461
● 営業利益	▲ 403	197	684	421	272
● 経常利益	▲ 783	260	704	140	102
● 当期純利益	▲ 844	97	1,148	▲ 59	44

※ 「当期純利益」は「親会社株主に帰属する当期純利益」を示しております。

※ 2016年度下期以降、(株)サクラ・アウ・イーの数値を含んでおります。

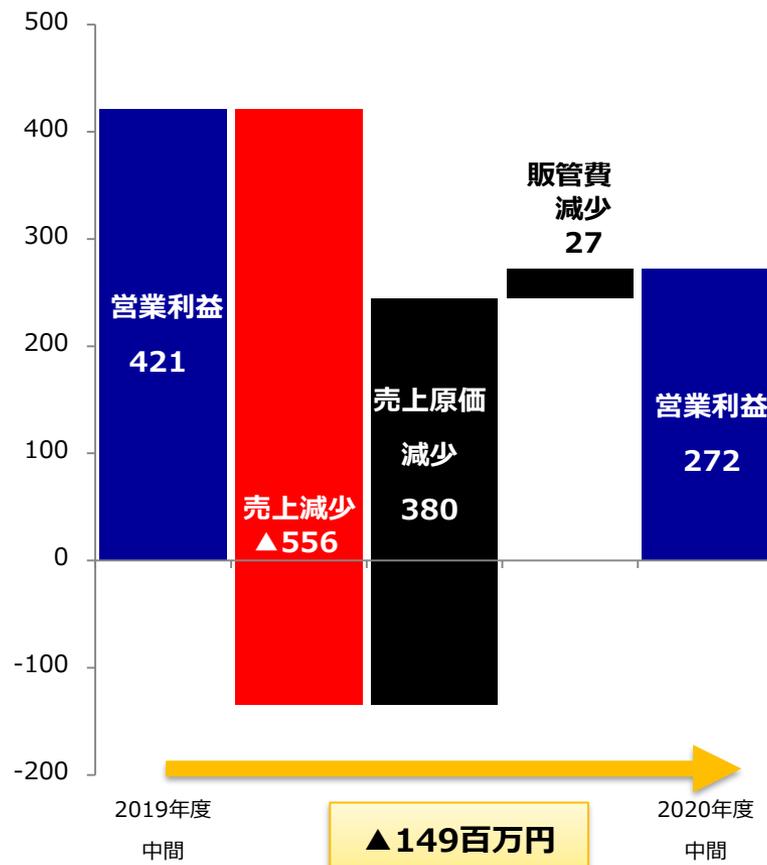
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



中間連結損益計算書の概要

(単位：百万円)

	2019年度 中間	2020年度 中間	前年同期との比較
売上高	6,017	5,461	556百万円減(前期比9.2%減)
営業利益	421	272	148百万円減(同35.2%減)
経常利益	140	102	38百万円減(同27.3%減) ・ 為替差損の計上(170百万円)
当期純利益	▲59	44	

※上記の「当期純利益」は「親会社株主に帰属する当期純利益」を示しております。

中間連結貸借対照表の概要

(単位：百万円)

	2019年度 期末	2020年度 中間	前期末との比較	
資産の部	29,039	28,962	製品の増加	372
			現金及び預金の増加	815
			受取手形及び売掛金の減少	▲1,739
負債の部	8,176	8,065	支払手形及び買掛金の減少	▲147
			長期借入金の減少	▲475
純資産の部	20,862	20,897	利益剰余金	▲78
			その他有価証券評価差預金	94

(単位：百万円)

	2019年度 中間	2020年度 中間	内 訳
営業活動によるCF	231	1,615	売上債権の減少 1,797 仕入債務の減少 ▲2 たな卸資産の減少 18
投資活動によるCF	▲70	▲284	有形固定資産の取得による支出 ▲278 投資有価証券の取得による支出 ▲3
財務活動によるCF	▲432	▲528	長期借入金の返済による支出 ▲389 配当金の支払額 ▲122
現金及び現金同等物の 中間期末残高	3,357	5,872	前期末 (5,057) 比増減 815

中間連結セグメント別 (実績)

1. 船舶用機器事業
2. 陸上用機器事業
3. 水処理装置事業
4. 消音冷熱装置事業



(単位：百万円)

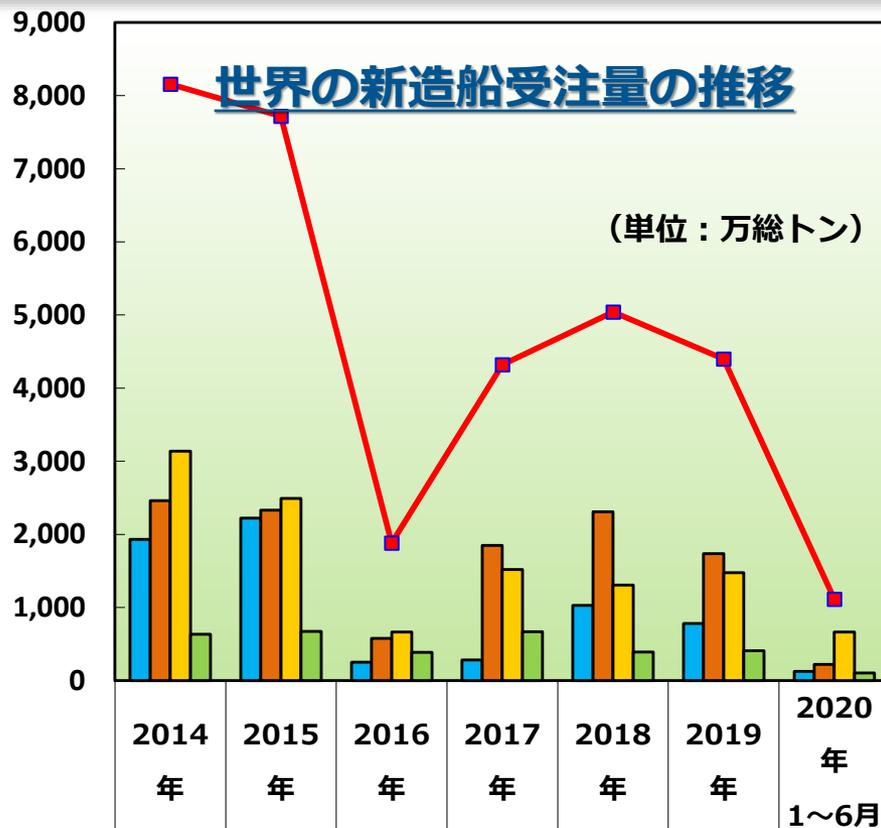
	2018年度	2019年度	2019年度	2020年度	2020年度
	通 期	中 間	通 期	中 間	通 期 予 想
受 注 高 (前期比増減率)	2,357 10.6%	1,087 ▲17.6%	2,240 ▲4.9%	1,028 ▲5.5%	2,200 ▲1.8%
売 上 高 (同 上)	2,360 5.2%	1,297 4.6%	2,417 2.4%	1,114 ▲14.1%	2,200 ▲9.0%
営 業 利 益 (同 上)	252 0.6%	161 8.7%	287 13.7%	169 4.6%	250 ▲13.0%

環境対応船用
WX型船舶用造水装置



■ 当期の概要

世界の新造船受注量は回復の兆しがなく、各造船所の手持ち工事量も減少が続き、受注高は10億28百万円（前年同期比5.5%減）と減少しました。売上高は11億14百万円（同14.1%減）となり、営業利益は1億69百万円（同4.6%増）、受注残高は9億39百万円（同5.4%減）となりました。



● 世界の造船受注

2007年: 169百万総トン(ピーク)
リーマンショック海運バブル崩壊

2014年: 81百万総トン

2015年: 77百万総トン

2016年: 18百万総トン

2017年: 43百万総トン

2018年: 50百万総トン

2019年: 40百万総トン

2020年: 11百万総トン (1月~6月)

● 世界の造船手持工事量(年末)

2014年: 197百万総トン

2015年: 201百万総トン

2016年: 152百万総トン

2017年: 143百万総トン

2018年: 150百万総トン

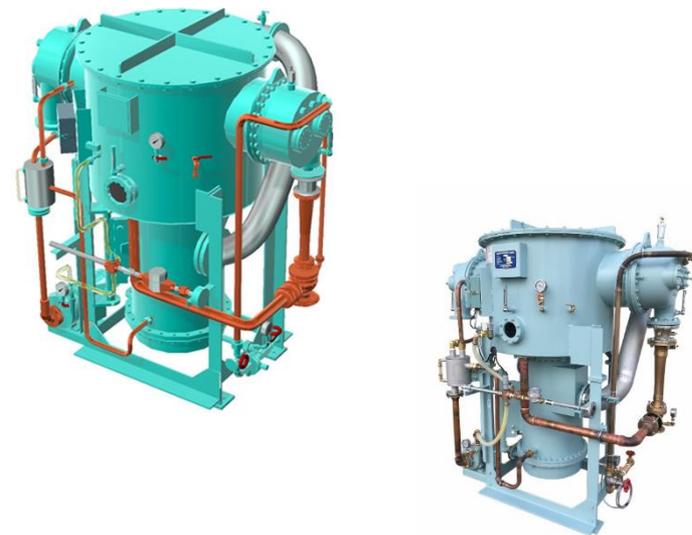
2019年: 132百万総トン

【戦略】

- ★環境対応船用機器の開発
- ★アフターサービスの強化による顧客満足度の向上

1. 船舶用造水装置受注台数の推移 (主力製品)

(単位:台)



K/X/WX-TYPE(チューブ式) 国別受注台数の推移

(単位:台)

	17年度	18年度	19年度	20年度 予想
日 本	156	149	187	162
韓 国	47	68	41	38
中 国	37	65	23	35
合 計	240	252	251	235

2. 陸上用機器事業

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度	2019年度	2020年度	2020年度
	通 期	中 間	通期	中 間	通期予想
受 注 高 (前期比増減率)	3,291 ▲11.8%	1,185 ▲0.0%	2,937 ▲10.8%	1,113 ▲6.0%	2,700 ▲8.1%
売 上 高 (同 上)	2,819 18.2%	1,451 ▲2.9%	2,565 ▲9.0%	1,756 21.0%	3,400 32.5%
営 業 利 益 (同 上)	231 127.7%	119 ▲17.5%	291 26.0%	138 15.7%	200 ▲31.4%

ごみ焼却場向け
空冷式熱交換器

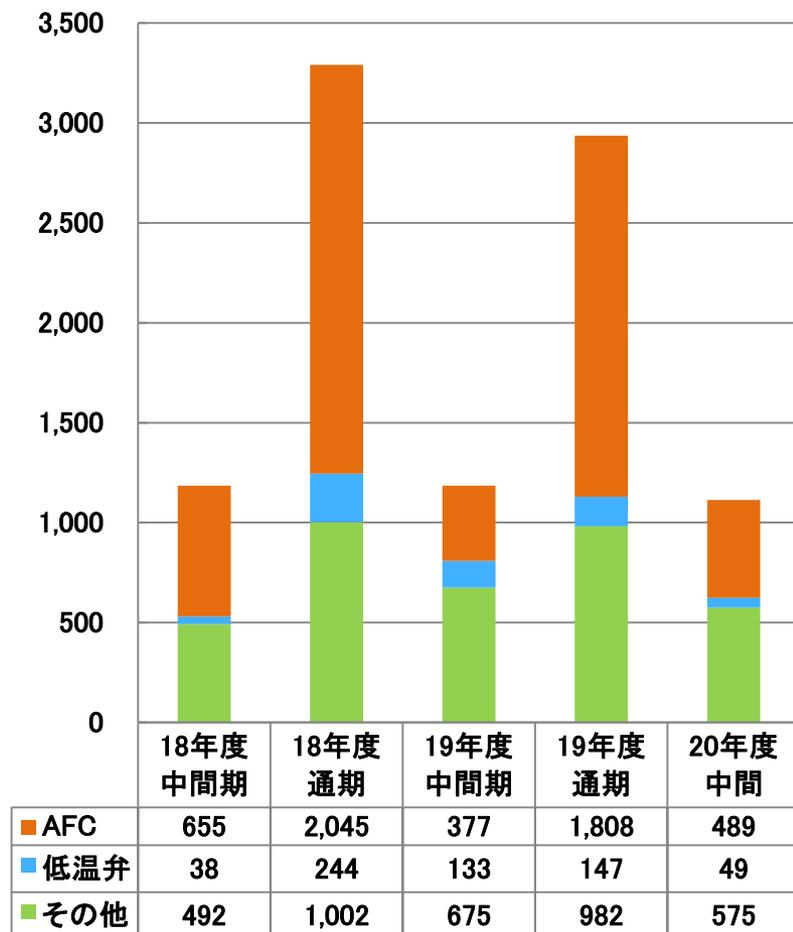


■当期の概要

海外メーカーとの競争激化や受注決定の遅延により都市ごみ焼却プラント向け空冷式熱交換器の受注が減少したことから、受注高は11億13百万円（同6.0%減）となりました。売上高は前期までに受注した案件の売上計上があったことから17億56百万円（同21.0%増）となり、営業利益は1億38百万円（同15.7%増）、受注残高は43億22百万円（同0.1%減）となりました。

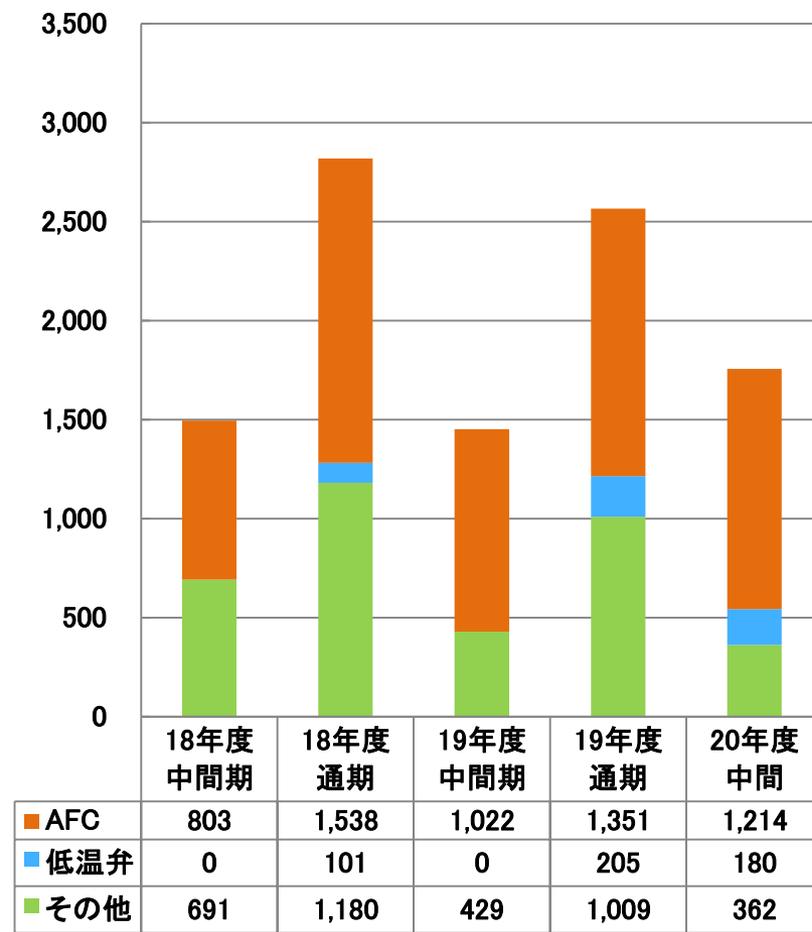
2. 陸上用機器部門の受注高・売上高の推移

受注高 (単位:百万円)



合計	1,185	3,291	1,185	2,937	1,113
----	-------	-------	-------	-------	-------

売上高 (単位:百万円)



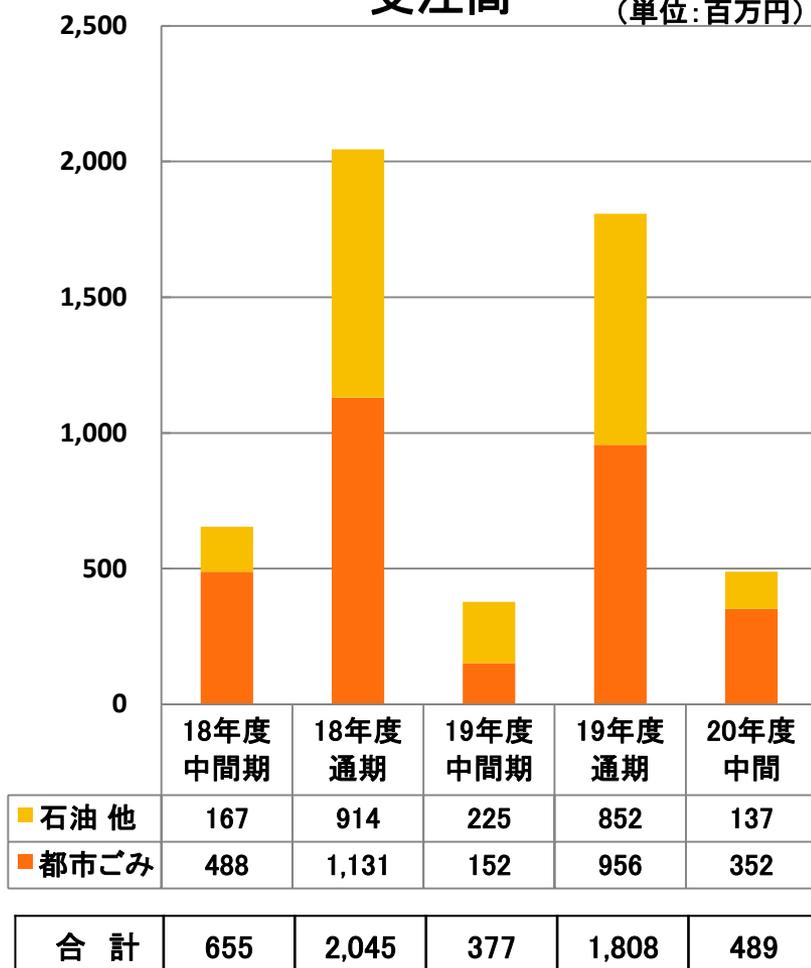
合計	1,494	2,819	1,451	2,565	1,756
----	-------	-------	-------	-------	-------

AFC=空冷式熱交換器

低温弁=液化天然ガス(LNG)制御用超低温弁

2. 空冷式熱交換器の市場別受注高・売上高の推移 (主力製品)

受注高 (単位:百万円)



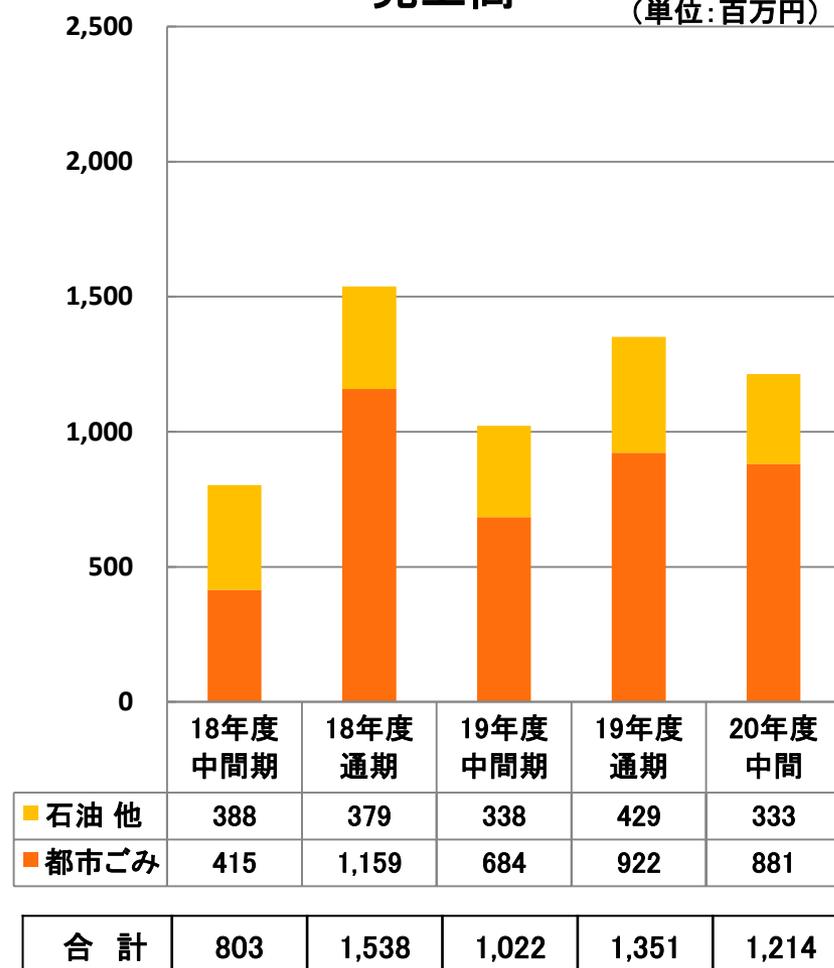
石油他 = 石油精製・石油化学プラント市場

都市ごみ = 都市ごみ焼却プラント市場

【戦略】

空冷式熱交換器の製造スペース拡張・自動化設備投入等による生産性と採算性の向上

売上高 (単位:百万円)



都市ごみ焼却プラント建設計画の推移
 (地方自治体からプラントメーカーへの発注件数と処理能力トン数)



通 期	16年度 実績	17年度 実績	18年度 実績	19年度 実績	20年度 予想
プラントメーカーからの 空冷式熱交換器発注件数	11件	20件	15件	8件	14件
当社の受注件数	7件	14件	10件	4件	8件

3. 水処理装置事業

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度	2019年度	2020年度	2020年度
	通 期	中 間	通 期	中 間	通 期 予 想
受 注 高 (前期比増減率)	4,370 12.4%	1,405 ▲36.8%	3,095 ▲29.2%	1,764 25.5%	3,800 22.8%
売 上 高 (同 上)	17,165 418.4%	1,636 39.0%	3,585 ▲79.1%	1,268 ▲22.5%	3,400 ▲5.2%
営 業 利 益 (同 上)	288 -	▲1 -	▲274 -	▲163 -	▲360 -

サウジアラビア
シュアイバ・フェーズ2
海水淡水化プラント
MED91,200t/d



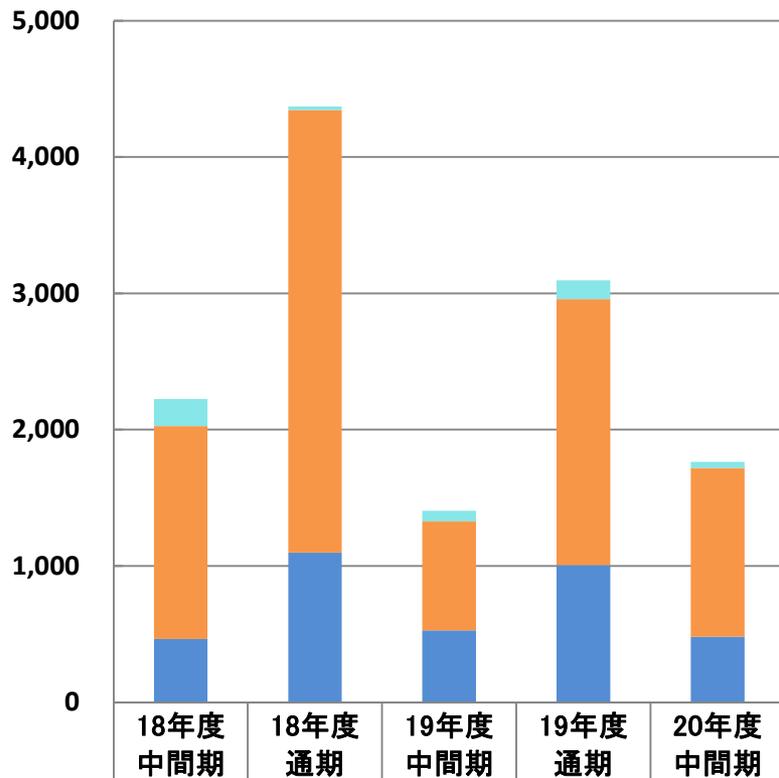
■ 当期の概要

台湾IT関連市場が好転し、同市場向け無排水化プラントの受注があったことから、受注高は17億64百万円（同25.5%増）となったものの、前期の受注減が影響し、売上高は12億68百万円（同22.5%減）となり、営業損益は1億63百万円の損失（前年同期は1百万円の損失）、受注残高は31億73百万円（前年同期比10.8%増）となりました。

3. 水処理装置部門の受注高・売上高の推移

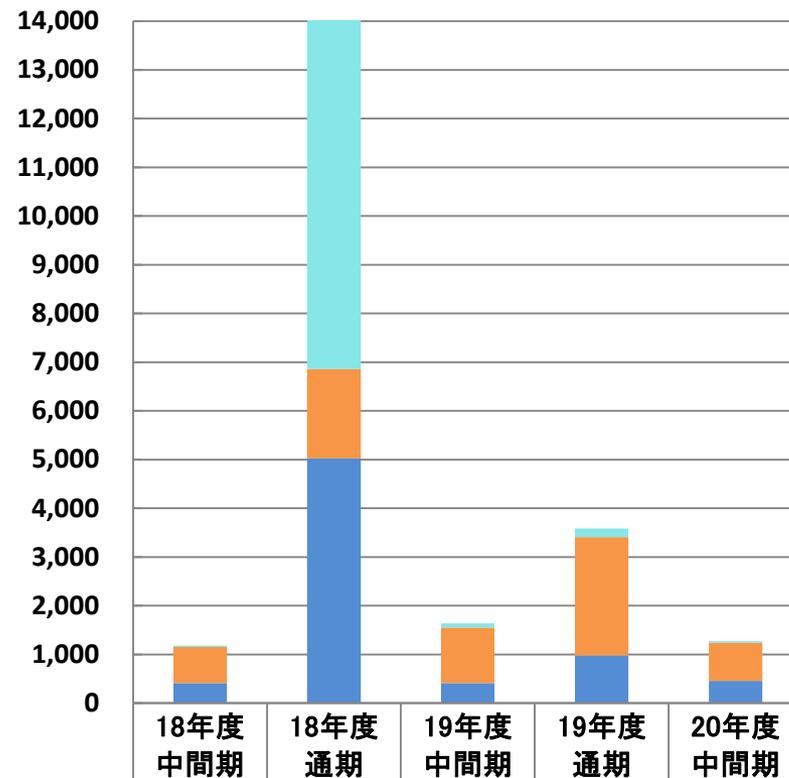
受注高

(単位:百万円)



売上高

(単位:百万円)



海水淡水化	198	24	76	136	45
蒸発濃縮	1,562	3,247	801	1,953	1,239
その他	465	1,099	528	1,006	480

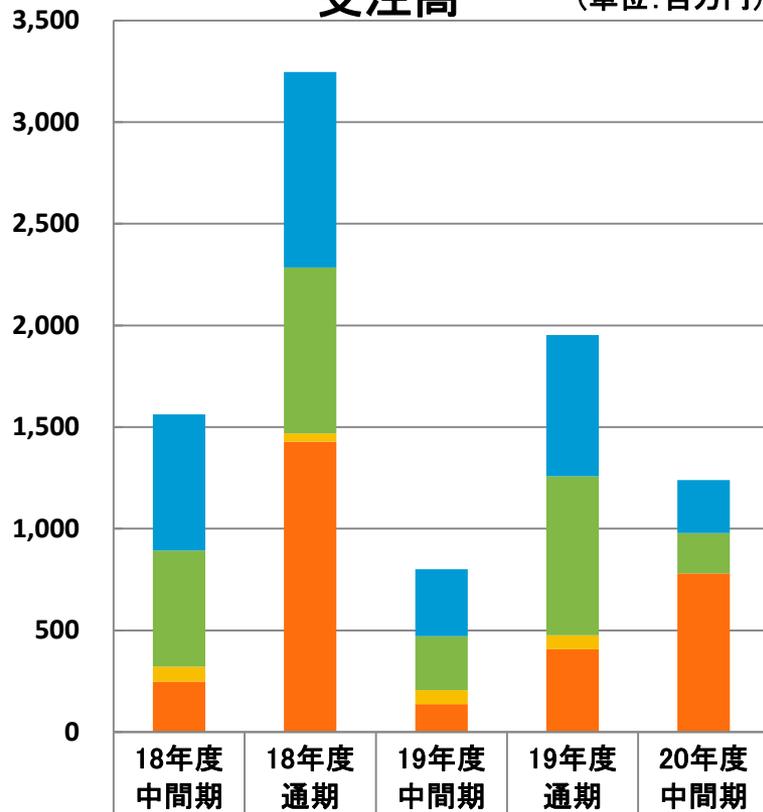
海水淡水化	24	10,306	87	176	33
蒸発濃縮	743	1,836	1,137	2,429	778
その他	410	5,023	412	980	457

合計	2,225	4,370	1,405	3,095	1,764
-----------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

合計	1,177	17,165	1,636	3,585	1,268
-----------	--------------	---------------	--------------	--------------	--------------

3. 蒸発濃縮装置の市場別受注高・売上高の推移

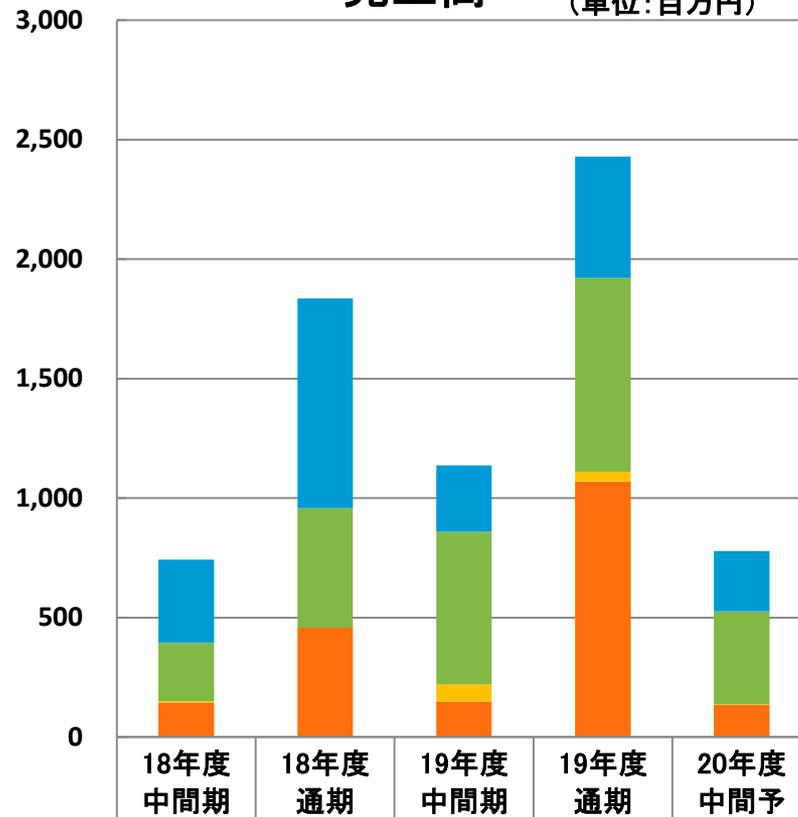
受注高 (単位:百万円)



■ IT関連	669	961	329	694	260
■ 化学関連	572	817	265	782	198
■ 食品・薬品	72	41	69	69	0
■ その他	249	1,428	138	408	781

合計	1,562	3,247	801	1,953	1,239
-----------	--------------	--------------	------------	--------------	--------------

売上高 (単位:百万円)



■ IT関連	349	878	278	507	252
■ 化学関連	244	500	638	812	389
■ 食品・薬品	6	0	72	41	3
■ その他	144	458	149	1,069	134

合計	743	1,836	1,137	2,429	778
-----------	------------	--------------	--------------	--------------	------------

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う世界経済設備投資の手控え

海水淡水化装置

- 原油価格大幅下落による産油国財政悪化
- サウジアラビアでは海水淡水化装置の引合案件はあるものの、逆浸透膜(RO)式のニーズが増加

蒸発濃縮装置

- アジア地域の自動車・IT 関連業界を中心に廃液中に含まれる有価物回収や「ZLD(無排水化)」に向けた排水処理向けの受注に注力
- ・ 台湾サイエンスパーク向け「ZLD(無排水化)」プラントの受注 1 件獲得

【戦略】

- ・ 蒸発濃縮装置の製造設備強化
- ・ アフターサービス体制の強化
- ・ ビジネスモデルの変革

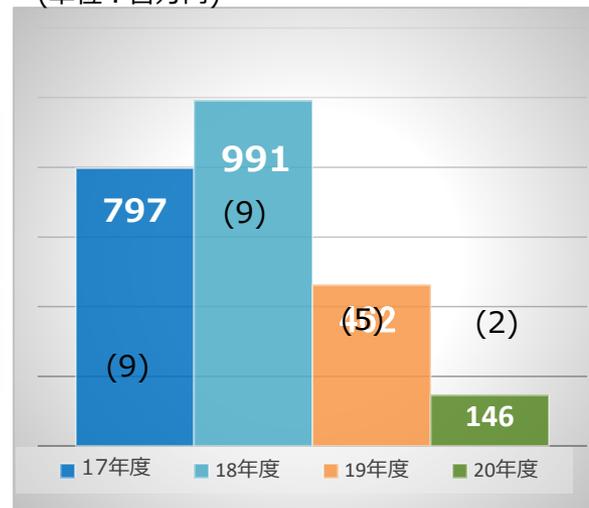


化学工業向け蒸発濃縮装置



【中国向け蒸発濃縮装置 受注実績】

(単位：百万円)



※ ()内は受注件数

4. 消音冷熱装置事業

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度	2019年度	2020年度	2020年度
	通 期	中 間	通 期	中 間	通期予想
受 注 高 (前期比増減率)	3,121 17.3%	1,384 ▲9.2%	3,137 0.5%	1,155 ▲16.5%	2,880 ▲8.2%
売 上 高 (同 上)	2,945 6.9%	1,624 46.4%	3,213 9.1%	1,315 ▲19.0%	2,980 ▲7.3%
営 業 利 益 (同 上)	78 ▲71.4%	135 319.5%	470 416.3%	124 ▲8.5%	200 ▲50.9%



リニアサイレンサー 実機
性能確認試験の様子



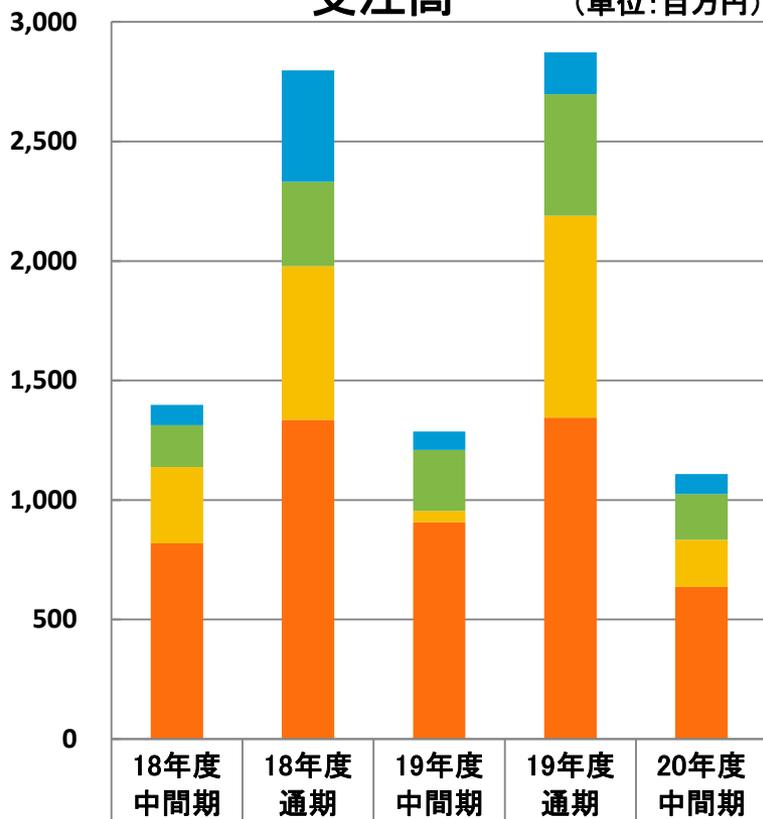
当社内に施行実施した水冷媒
放射空調システム
(既設の空調システムを改装)

■当期の概要

データセンターなど首都圏向け騒音防止装置の受注が前期と比べ減少し、受注高は11億55百万円（同16.5%減）となった為、売上高も13億15百万円（同19.0%減）となり、営業利益は1億24百万円（同8.5%減）、受注残高は13億40百万円（同0.3%増）となりました。

4. 騒音防止装置の市場別受注高・売上高の推移

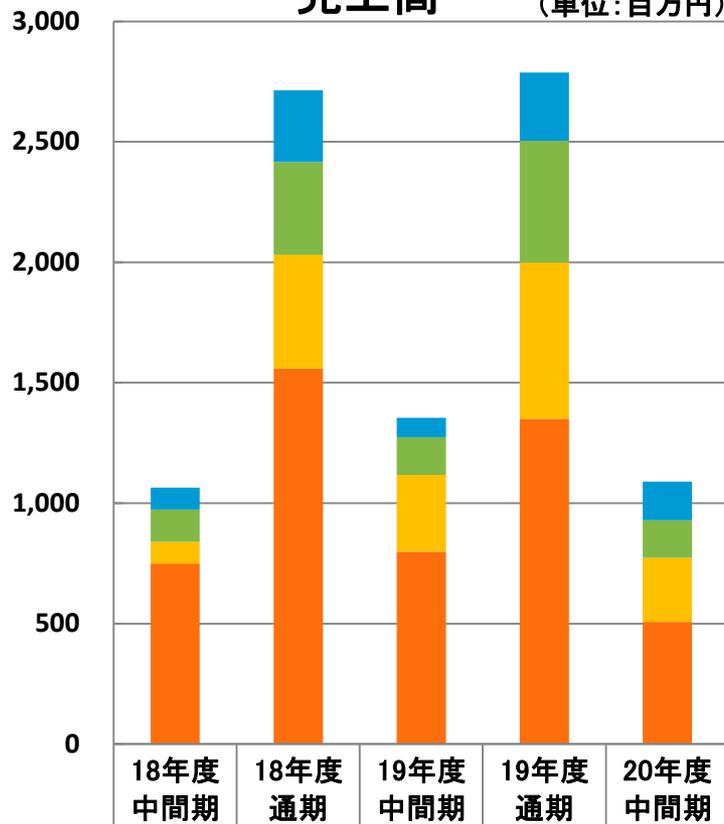
受注高 (単位:百万円)



■ 官公需	85	466	77	176	84
■ 自家発電整備	175	353	255	508	191
■ 屋外機対策	319	643	48	844	197
■ その他	819	1,335	907	1,345	637

合計	1,398	2,797	1,287	2,873	1,109
----	-------	-------	-------	-------	-------

売上高 (単位:百万円)



■ 官公需	92	297	80	283	160
■ 自家発電整備	134	385	157	504	155
■ 屋外機対策	90	473	319	650	267
■ その他	749	1,558	798	1,350	507

合計	1,065	2,713	1,354	2,787	1,089
----	-------	-------	-------	-------	-------

船舶市場向け騒音防止装置

- **受注**：17年度通期/108隻、18年度通期/75隻、19年度通期/103隻、20年度上期/44隻、

水冷媒放射空調システム

- 温室効果ガス削減に向けた
経済産業省目標業務部門40%カット実現の有力候補
- 知名・認知度向上による引合案件増

受注：17年度 302百万円、18年度 281百万円、19年度68百万円、20年度 53百万円、

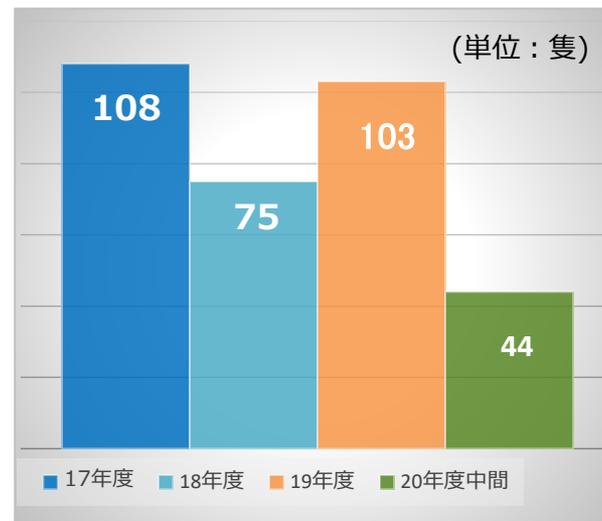


食品メーカーの本社新社屋に施工した放射空調システム

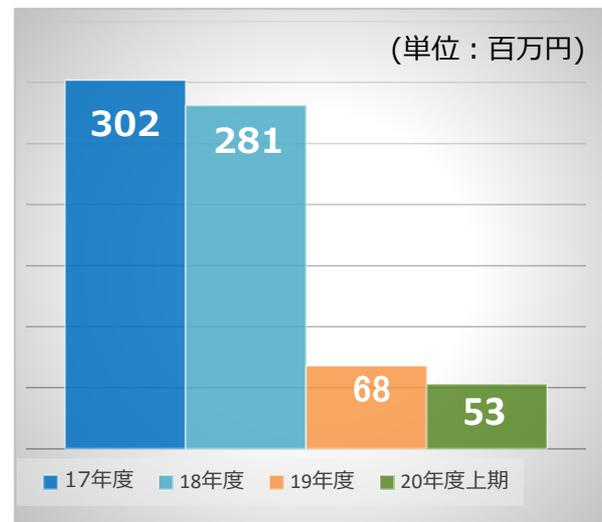
【戦略】

5Gシステム普及に伴うデータセンター向け騒音防止需要の獲得

【船舶用騒音防止装置 通期受注実績】



【水冷媒放射空調システム 通期受注実績】



2020年度 通期連結業績予想



2020年度 連結業績予想まとめ

(単位：百万円)

		船舶用機器 事業	陸上用機器 事業	水処理装置 事業	消音冷熱 装置事業	その他	合 計
2020年度	受 注	2,210	2,760	3,760	2,850	20	11,600
予 想	売 上	2,200	3,400	3,400	2,980	20	12,000
	営業利益	250	200	▲360	200	10	300
2019年度	受 注	2,240	2,937	3,095	3,137	13	11,424
実 績	売 上	2,417	2,565	3,585	3,213	13	11,796
	営業利益	287	291	▲274	407	8	719

開示情報 トピックスについて



第46回優秀環境装置表彰事業 「日本産業機械工業会会長賞」受賞！

（一社）日本産業機械工業会が主催する第46回優秀環境装置表彰事業において、縮流吸音型騒音防止装置（リニアサイレンサー）が日本産業機械工業会会長賞を受賞しました。



リニアサイレンサー 実機性能確認試験の様子

第9次中期経営計画 「Productivity Innovation-21」 (2019年度から3カ年)

Productivity Innovation-21

経営方針

CS（顧客満足度）の向上

企業目標

業務の改革をもって**生産性を向上**させ、
お客様の期待に応える企業

経営目標

2021年度 売上高営業利益率 **5%**

主な重点施策

I. 生産能力の増強と業務効率の向上

- 1) 生産能力・国内生産体制強化
- 2) 業務効率の向上

II. 現有市場の拡大と収益力強化

- 1) 船舶用造水装置の拡販
- 2) 船舶用アフターサービス事業の拡大
- 3) 空冷式熱交換器の競争力強化
- 4) 蒸発濃縮装置アフターサービスの拡販
- 5) 蒸発濃縮装置の中国事業拡大

III. ビジネスモデルの変革と新製品・新市場展開

- 1) 蒸発濃縮装置のビジネスモデルの変革
- 2) マテリアルリサイクルでの新テーマ発掘

水を造り、熱を活かし、音を究め、よりよい環境をつくる

SASAKURA

【本資料に関する注記事項】

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本資料にて記載されている、当期ならびに将来のデータや将来の予測等は、本資料の発表日現在、入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。

従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことは、お控えくださいますようお願い致します。

本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。